



## 秋の天王山ウォーキング同行ガイド記

終日曇り空の程よい気温の10月26日(土)に実施出来た。参加者は山歩き48人、山麓歩き23人、合計は71人で盛会と言えようか。

参加年齢層は両コース共に50代~70代が多数。行事を電鉄会社の広報誌で知り参加した人が多かった。乙訓地区からの参加者は両コース共に3人ずつで、仲間から口コミで知って参加した人がいた。我々は日頃から有効な口コミ宣伝をする必要がある。高知など遠方からの参加者も多い。

アサヒグループ大山崎山荘美術館庭園(参加者が一番印象に残った場所)を見てから山に向かった。此处で時間調整も出来て非常に良かった。

今回の登山コースは天王山山頂折り返しコースで、私には丁度良い距離であったが、若い人、元気な登山者にとっては物足らなかつたかもしれない。

私のグループで当日参加の中年男性が途中で体調が悪くなり、メンバーが付き添い下山してくれた。こんな事も有るか、後は仲間が付き添い行動してくれた。参加者に大した事故もなく終了出来た。

今回は、下山ルートにスキー板ベンチコースとした。急斜面があり、岩がゴツゴツした道なので心配したが、乗り切れた。山麓コースでも女性の参加者が体調不良で途中離脱したが、フォロー出来て良かった。

山崎合戦について改めて理解できたという人もいて、丁寧な説明をして頂き感謝の人が多数あったと言う。

(2班 澤田僚一 記)



## 宝積寺 1300 年見学会に参加して

11月17日(日)、大山崎町歴史資料館企画展『宝積寺1300年—その信仰のかたち』の現地見学会に参加しました。

最初に、資料館で福島館長より宝積寺は開基して1300年になること、京都大学所蔵の宝積寺文書の殆どは売券と寄進状で、また修復された十一面観音立像には造像当時、数多くの人々が奉加していること等を説明して頂きました。その後、山崎院跡から大念寺、宝積寺のコースをたどりました。

宝積寺は、「宝寺」とも呼ばれ聖武天皇の勅願で、山崎橋を架橋した行基が開山し、元は山寺でした。平安時代後期頃から庶民の信仰も集めるようになりました。

聖武天皇が龍神から打出と小槌を授かり祈願したところ、75日後に天皇に即位できたという伝説や山崎橋が流失した時、ご本尊の十一面観音が翁に化身し見事に橋を完成させたという伝説が残されています。

本堂の見学では、尊い観音様のお顔を拝ませて頂く

という当時の山崎の人々の気持ちに寄り添いながらも貴重な文化財に対する注意もあり、薄暗い通路を慎重に通過しました。

閻魔王と4眷属は、西観音寺にありましたが、明治維新の神仏分離で宝積寺に移されたもので、流石に閻魔王は迫力がありました。三重塔は、山崎合戦で勝利した秀吉が一夜で建てたという伝説から「一夜の塔」と呼ばれています。最近では小動物のいたずら対策をどうしたらよいかが課題のようです。また九重塔は、聖武天皇の供養石塔で一足早く地震対策をしたために大阪北部地震では倒壊を免れたとも伺いました。

これからも貴重な文化財を守っていかねばとの思いを新たにしました。

(3班 酒井重男 記)



宝積寺仁王門

## 大徳寺日帰り研修

11月26日(火)、OFGガイド内容と繋がり深い京都の大徳寺を23名で訪問しました。大徳寺は鎌倉時代に大灯国師が叔父の赤松円心の援助により建立したのが起源と言われています。赤松円心の荏胡麻に関する書状が大山崎町歴史資料館に展示されています。また、大徳寺は山崎の合戦の覇者・豊臣秀吉が織田信長の葬儀を行なった場所です。更に、山門「金毛閣」は茶室待庵を設計した千利休が秀吉の怒りをかった原因と伝えられています。

大徳寺には本坊と21の塔頭があり、外から金毛閣を見学後、2班に分かれて主に「黄梅院」「総見院」を見学しました。黄梅院は信長が父・信秀の追善菩提のために秀吉に命じて建立したのが始まりで、利休作庭の苔一面の「直中庭(じきちゅうてい)」や枯山水庭園な

ど禅寺の風情ある美しい庭園がありました。また、日本最古の庫裏の屋根は柿葺ですが、勅使門に使われた檜皮葺の方が格式は高いと知りました。

信長の塔所として秀吉が新たに創建したのが総見院です。本堂には沈香で作られた眼光鋭い信長公の木造が安置され、墓地には信長や信長の子息、正室、側室の12基もの供養塔が並んでいました。

修行の場であるため境内参道には色づいた楓もない禅宗寺院を訪問し、今回の学習成果を今後のガイド活動に生かすことを決意しました。

(4班 須田幹夫 記)



**深悼** 2班 澤田僚一氏がご逝去されました。上記記事は生前にいただいたものです。OFGへの多大なご貢献に厚く御礼を申し上げ、衷心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌